

2023 年 6 月 30 日

The Emerging Markets Weekly

欧米中銀のタカ派な姿勢や、強い米経済指標を受けて下落

新興国市場:先週末 23 日のアジア時間は中国景気への懸念と FRB のタカ派姿勢が重しとなり、新興国通貨は総じて軟調となった。KRW、SGD や THB が値を下げた。欧米時間、ユーロ圏 6 月 PMI が市場予想を下回る結果となり、ユーロに連れて新興国通貨も下落。また、商品市況の軟化も新興国通貨の下押し材料となった。RUB、TRY と ZAR は前日比▲1.0%超値を下げた。週初、26 日の新興国通貨は大半が小動き。アジア時間、連休明けの CNY は中国株式市場の軟調推移に連れて大幅に下落した。欧米時間は商品市況の持ち直しを受けて、ZAR や BRL が底堅い動き。一方、TRY は前日比▲2.7%値を下げた。27 日、アジア時間の新興国通貨は上昇した。中国人民銀行(PBoC)が CNY の対ドル基準値を 2 日連続で CNY 高に設定したことを受けて、当局が CNY 安を容認しなくなりつつあるとの見方が拡がり、新興国通貨全体の支えとなった。PHP や KRW が堅調。欧米時間はラガルド ECB 総裁や複数の ECB 高官らのタカ派な発言を受け、ユーロに連れて新興国通貨も上昇した。しかし、米経済指標が市場予想を上回る結果となると米金利が上昇し、新興国通貨の上値を抑えた。BRL はブラジル中央銀行(BCB)の議事要旨の内容を受けて下落。他方、ZAR は値を伸ばした。28 日のアジア時間はドルの堅調を背景に軟調な動き。THB はタイの新首相の選出を巡る不透明感を受けて大幅に下落。KRW と SGD も値を下げた。欧米時間は ECB フォーラムでのパウエル FRB 議長の発言内容を受けて、ドルが上昇。新興国通貨は下押しされた。BRL や ZAR が下落。TRY は過去最安値を更新した。また、CNY は欧米時間に 7.25 台まで値を下げた。29 日のアジア時間は前日の流れが続き、新興国通貨は軟調。KRW が下げをけん引した。欧米時間、強い米経済指標の結果を受けてドル全面高となり、新興国通貨は下落。RUB や ZAR の下落が目立った。

アジア:23 日発表のマレーシア 5 月消費者物価指数(CPI)は前年比+2.8%と 4 月(同+3.3%)から鈍化し、市場予想(同+3.0%)を下回った。フィリピンのマルコス大統領は 23 日に、フィリピン中央銀行(BSP)のメダラ総裁の後任に BSP 理事会メンバーのエリ・レモロナ氏を指名した。7 月に就任し、任期は 6 年となる。23 日発表のシンガポール 5 月 CPI は前年比+5.1%と 4 月(同+5.7%)から鈍化し、市場予想(同+5.4%)を下振れた。ベトナム国会は 24 日、付加価値税(VAT)を 7 月に 10%から 8%に引き下げることを選定した。不動産や電気通信など一部の商品・サービスは適用外とする。緊急減税で一段の景気減速を防ぐのが狙いだ。マレーシア中央銀行(BNM)は 27 日、直近の MYR の下落につき声明を発し、今後相場安定のために MYR 買い為替介入する方針を示した。

ラテンアメリカ:27 日発表のブラジル 6 月前半の消費者物価指数(IPCA)は前年比+3.40%と市場予想(同+3.38%)を僅かに上回ったが、2020 年 9 月以来の低水準となった。また、同日に BCB は議事要旨を公表。利上げの終了と 8 月での利下げ開始が示唆されたことで、週後半は BRL の下落が目立った。

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

市場概観(インドネシア)

6 月金融政策会合～遂にインフレは目標レンジ内に

マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

インドネシア銀行(中央銀行、BI)は 21～22 日に開催した金融政策会合で、政策金利の 7 日物リバースレポレートを従来の 5.75%に維持した(図表 1)。上限金利の翌日物貸出ファンリティ金利と下限金利の翌日物預金ファンリティ金利もそれぞれ 6.50%、5.00%に据え置いた。BI は 22 年 8 月以降、合計+225bps の利上げを行ったのち、5 会合連続で政策金利を維持。なお、ブルームバーグの事前予想でも、各種政策金利の据え置きが優勢であった。

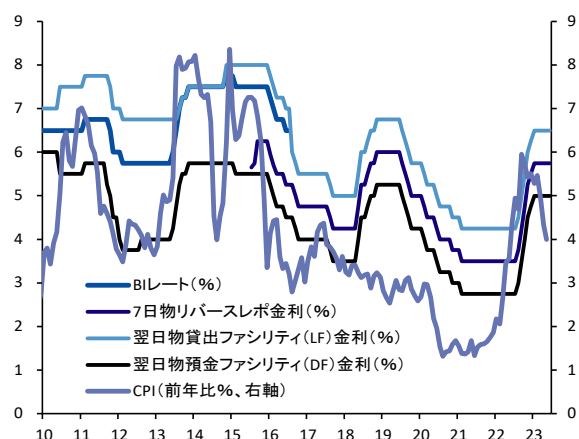
声明文及びペリーBI 総裁の会見では、23 年の世界経済成長予想に関し、従来の前年比+2.7%に据え置いた。世界的な金融引き締めの影響で経済は下押し圧力が依然残っているといったこれまでの認識に加えて、中国経済の回復ペースが弱まっている点にも言及した。また、国内経済については、人流の活性化を背景に堅調さを維持していることを強調。強弱の度合いはあるものの、製造業・サービス業とも景況感の改善が続き、個人消費を中心に経済成長は続くといった見方を示した。23 年の実質 GDP 成長率予想は前回会合時と同様、同+4.5～+5.3%と設定している。

物価動向について、直近公表の 5 月消費者物価指数(CPI)は前年比+4.0%と数字上は 1 年ぶりに BI の定める目標レンジ(+2.0%～+4.0%)に収束した(図表 2)。過去数回の会合では総合 CPI が 23 年 7～9 月期にインフレ目標内に収束するとの見解を示し、インフレ抑制に目処が立っているとしていたが、予想よりも早くインフレは減速している。また、食料品・燃料価格を除くコア CPI は同+2.7%と 4 月の+2.8%から鈍化した。先行きについても、総合ベース、コアベースとも警戒を弱めている印象だ。

こうした状況下、ペリー総裁は現行の政策金利の水準がインフレを目標レンジ内に収束させる上で妥当である旨の発言をしており、利上げの終了は明示されなかったがその可能性は高いと考えられる。また、IDR の安定性維持を強調しており、現行の水準に特別な言及はないものの、米国をはじめ先進国で高インフレが定着し、金融引き締めが長期化している点を意識していると見られる。

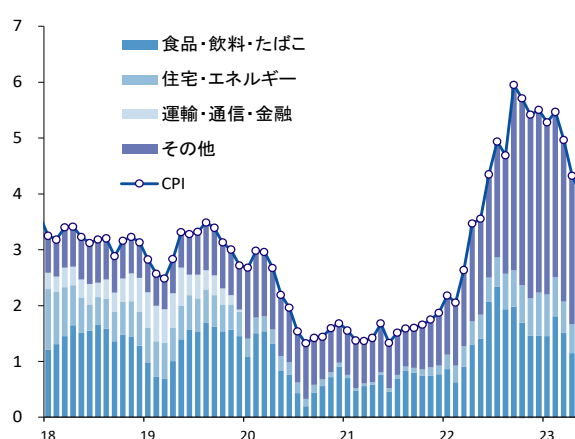
月中の IDR 相場動向を見ると、やや方向感に欠く動きとなっている(図表 3)。6 月 FOMC でのタカ派な情報発信に加えて、軟調に終わった中国の経済指標の結果を受けてリスク心理は上向きにくくなっている。また、中国向けの輸出をはじめとした外需の減速はインドネシアの貿易実績にも波及しつつあり、5 月貿易収支は+440 億ドルと黒字を維持したものの、20 年 5 月に貿易黒字に転じて以降では最小となっており、本欄で従前から予想してきた貿易収支の悪化が懸念される状況となっている(図表 4)。主要産品である石炭やパーム油の価格は前年の水準から明らかに調整が入っており(図表 5)、製造業の景況感が世界的に弱まっている中で、これまで IDR 相場を支えてきた堅調な貿易黒字を背景とした需給環境にも年後半には本格的に変化が出てきそう。

図表 1: 政策金利と消費者物価の推移



出所: インドネシア銀行、Bloomberg、みずほ銀行

図表 2: 消費者物価の動向 (前年比%、%ポイント)



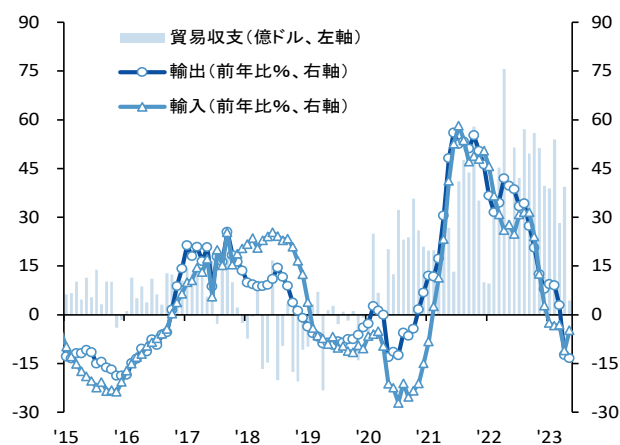
出所: CEIC、みずほ銀行

図表 3: IDR 相場の動向



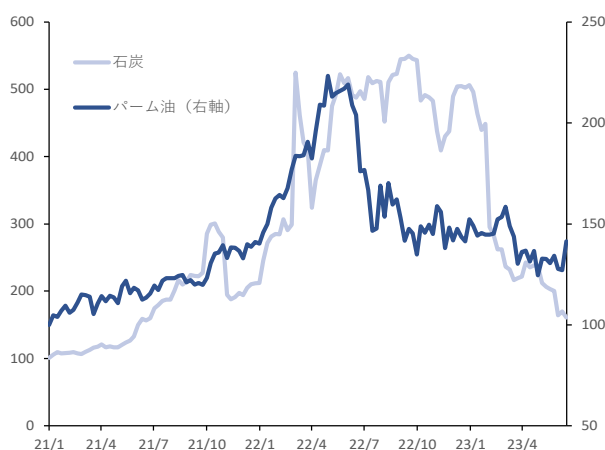
出所: Bloomberg、みずほ銀行

図表 4: 貿易収支の動向



出所: Bloomberg、みずほ銀行 注: 後方 3 か月移動平均

図表 5: 主要製品の価格動向



出所: Bloomberg、みずほ銀行 注: 2020 末=100 として指数化

市場概観(フィリピン)

6 月金融政策会合～タカ派なトーンは徐々に弱まる

マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

フィリピン中央銀行(BSP)は22日に開催した金融政策会合で、政策金利の翌日物リバースレポレートに従来の6.25%に据え置いた(図表1)。BSPは過去9会合連続で利上げを実施してきたが、前回5月会合に続き利上げを見送った。また、上限金利の翌日物貸出ファシリティ(OLF)レートおよび下限金利の翌日物預金ファシリティ(ODF)レートも変動なく、それぞれ6.75%と5.75%となった。なお、ブルームバーグの事前予想では、現状維持が有力であった。

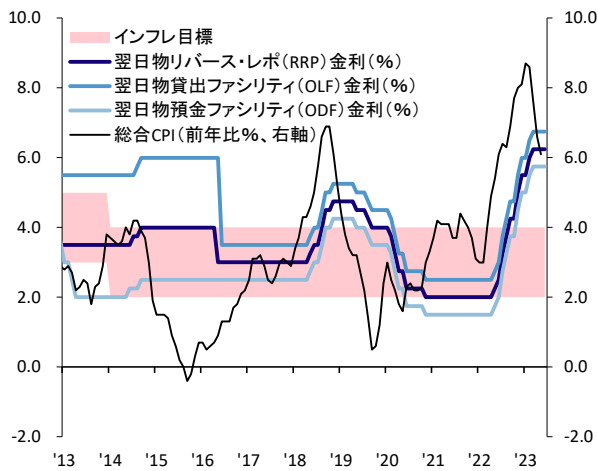
声明文では、国内のインフレ動向に関する記述が目立った。直近公表の5月消費者物価指数(CPI)は前年比+6.1%と4月の同+6.6%から低下した(図表2)。過去数か月の動きと同様に食料品価格やエネルギー価格の下落が進んだことが主な要因だ。また、BSPは前回5月会合に続いてインフレ見通しを更新しており、23年は前年比で+5.5%、24年を+2.9%とした。23年については更なる下方修正が施されており、引き続き10～12月期での目標レンジ内(+2.0～+4.0%)へ収束を見込んでいる。その一方で、食料品とエネルギー価格を除いたコアCPIの数字は前年比+7.7%と周辺国と比較しても強さが際立っており(図表3)、今後にかけても最低賃金上昇や気候変動に伴うインフレの上振れリスクにも引き続き警戒感を示している。

BSPは、インフレのピークアウトを背景に今回会合も政策金利を据え置き、利上げ終了観測も強まっている。今後の政策指針を占う上では、引き続きインフレ動向が大きな材料となっている。メダラ総裁は利下げを検討する際にはCPIが2か月連続で+4.0%を下回ることを確認したいといった発言も出たが、足許の数字から判断すれば、利下げにはまだ距離があるものと考えられる。また、年内での目標レンジ収束の背景には国内経済成長の減速による需要面のデシインフレも要因として指摘しており、成長率予想の見直しはなかったものの、過去数回の会合と比較して景気動向に配慮した点も見られた。総じてBSPのタカ派姿勢は弱まりつつある状況で、メダラ総裁の任期は今年7月までの予定であるが、総裁交代後も政策スタンスに大きな変更はないものと考えられる。

一方で、米国をはじめ先進国のインフレが長期化しており、複数の国で予想外の利上げや追加利上げを示唆する国が出てきているなど、外部要因にも配慮が必要な相場地合いになっている。6月のPHPの動きをみても特に先進国の利上げ(≒金融引き締め)途中の通貨に対しては概ね弱含んでおり、金融政策の方向感が相場に出やすくなっている印象がある(図表4)。ASEANの周辺国をみてもインフレが一巡した場合においては、利上げを打ち止めている国も出ており、通貨の動きも概ね同様のトレンドが見られる。かかる状況を踏まえて、FRBが最大で年内2回の利上げ可能性を残している中で、短期的に下落圧力が強まる展開も考えられる。

PHPの上振れ要因としては、ファンダメンタルズの改善や資源価格の下落に伴う貿易赤字の縮小といった国内要因もあるが、中国経済の動向と中国政府の景気支援策の内容にASEAN通貨の相場も引き続き左右されそうだ。これらについては、7月中旬公表予定の4～6月期実質GDP成長率の内容やその前後にかけての当局の情報発信に対しては特に注意を払いたい。

図表 1: 政策金利水準とインフレ目標



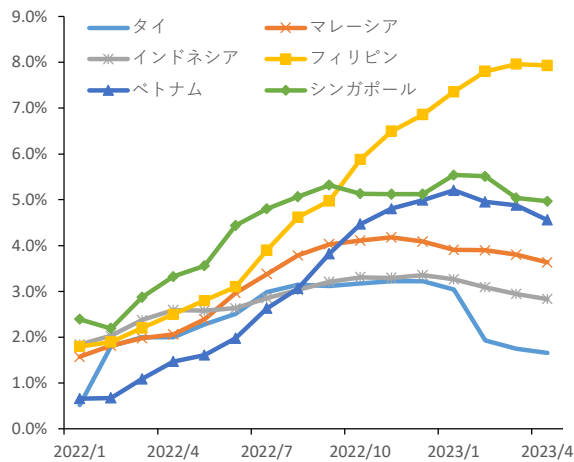
出所: フィリピン中央銀行、フィリピン国家統計局、Bloomberg、みずほ銀行

図表 3: 消費者物価上昇率の推移(前年比%, %ポイント)



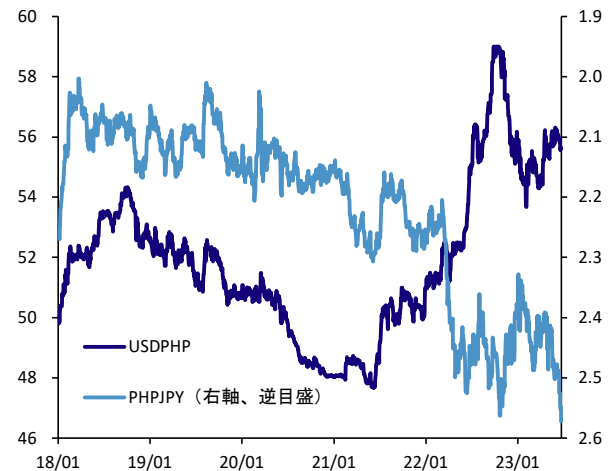
出所: CEIC、みずほ銀行

図表 3: ASEAN 各国のコア CPI の動き(前年比%)



出所: Macrobond、みずほ銀行

図表 4: PHP 相場動向



出所: Bloomberg、みずほ銀行

市場概観(マレーシア)

MYR の続落を受けて為替介入を実施へ

マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

ロイター通信社は 28 日、マレーシア中銀が足許の通貨下落を受けて、相場安定のために MYR 買いの為替介入を実施することを報じた。MYR は 27 日時点において年初来対ドルで▲5.6%の下落を記録し、周辺国通貨と比較しても下落が目立っている。特に 4 月以降はじり安となっており、本稿作成時点では 4.67 台を推移し約 7 か月ぶりの安値水準での取引となっている(図表 1)。

改めて足許の景気と相場動向について整理する。マレーシアは昨年以降、行動規制の緩和が進んでコロナ禍前の水準以上の GDP 回復を実現。その間、国内のインフレも加速し、マレーシア中銀(BNM)はインフレの抑制を主眼とした利上げを継続してきたが、直近ではインフレが制御可能な水準に戻り、国内の景気回復ペースも減速傾向にあったことから金融引き締め打ち止めを見極める段階に入っていた(図表 2)。その一方で、FRB は 6 月 FOMC の結果に象徴されるように、インフレの長期化に対する警戒とタカ派姿勢を維持。米金利の騰勢が強まったとともに両国の金利差は一時逆転し、金利面でドルに押されたことが確認できる(図表 3)。

MYR の需給面についても、変調の兆しが見られている。コロナ禍においてもマレーシアの強みである豊富な一時産品や機械・電子製品の輸出を背景に安定的に貿易黒字を計上してきたが、世界的な製造業の景況感の停滞や財需要の減速と相まって、その水準は着実に縮小している(図表 4)。特にコモディティ輸出は価格の調整もあって前年と比較して大きく減速している中で、今後の市況を左右する中国経済の持ち直しに不透明感が強まっている。現に中国向けの輸出が伸び悩んでおり(図表 5)、主要産品の需要の改善が見込みづらい状況下、年後半にかけての持ち直しを期待するのは難しいように思われる。なお、直近における対中輸出は前年比でプラスの推移となっているが、中国で厳格なコロナ規制が敷かれた時点との比較であることから、数字ほどに輸出が改善していないものと考えたい。総じて通貨安を背景に輸出を伸ばすことは難しくなっており、これによって MYR の通貨安が修正されにくい地合いにあるものと考えられる。

BNM は今回の決定に際して、マレーシアのファンダメンタルズに対し、MYR が過小評価されている点に言及した。景気の回復はピークを過ぎたものの予想を裏切る内容ではないこと、海外からの堅調な投資資金流入が続いていながらも、足許の軟調な中国経済の動きに合わせて MYR も売られやすくなっている可能性を示唆した。引き続き国内経済は年間の目標(前年比+4.0~+5.0%)に向けて成長が続くとの見方を示しており、BNM は今後の FRB の動向や中国人民銀行(PBoC)や中国政府の情報発信に柔軟に対応する姿勢を示している。

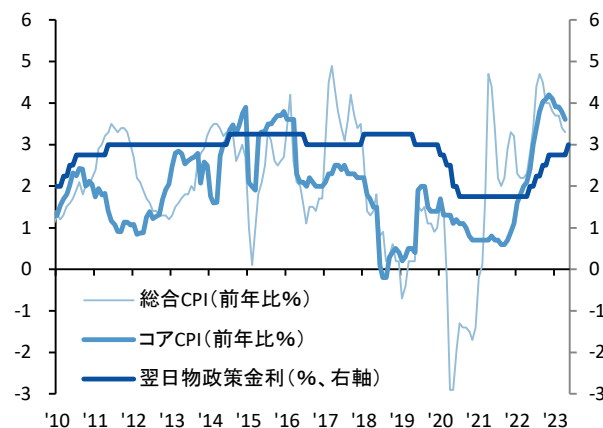
今回の介入規模やスケジュールに関して、詳細は内容の公表はなく、マレーシアの外貨準備は安全性の基準とされる輸入比率 3 か月以上の水準にはあるものの、新興国全体と比較しても潤沢であるとは言えない(図表 6)。そのため MYR の下落が弱まる際など、効果的なタイミングでの実施が求められる。

図表 1: MYR の動向



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: マレーシア政策金利と消費者物価指数(CPI)



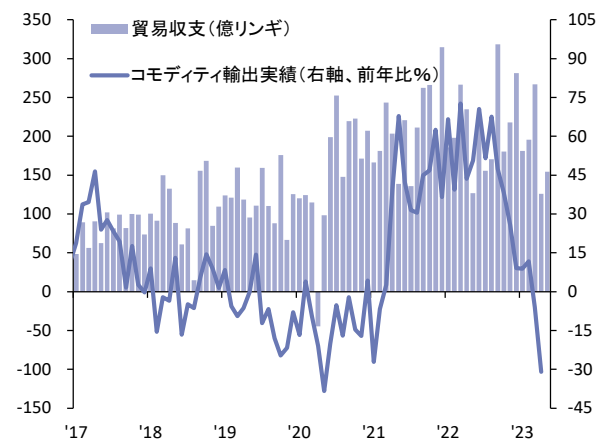
出所: マレーシア中央銀行、マレーシア統計局、CEIC、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 3: 対米金利差(マレーシアー米)と MYR 相場



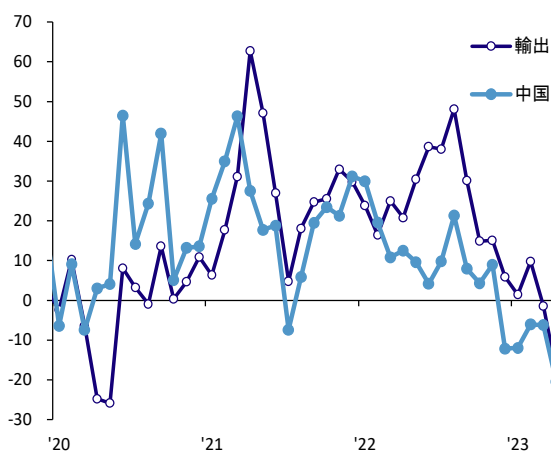
出所: Macrobond、みずほ銀行

図表 4: 貿易収支とコモディティ輸出実績



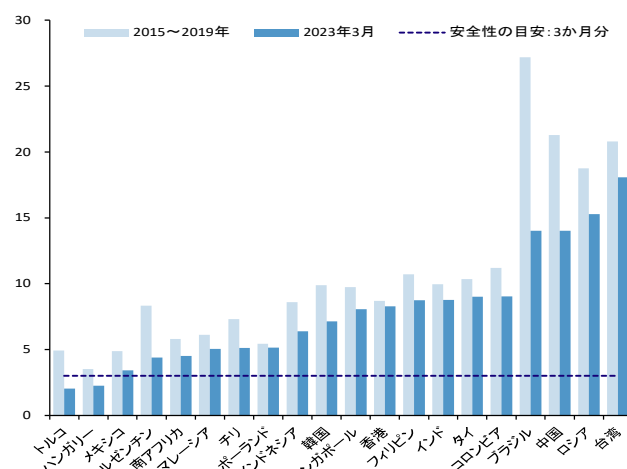
出所: ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表 5: マレーシア輸出実績(前年比%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

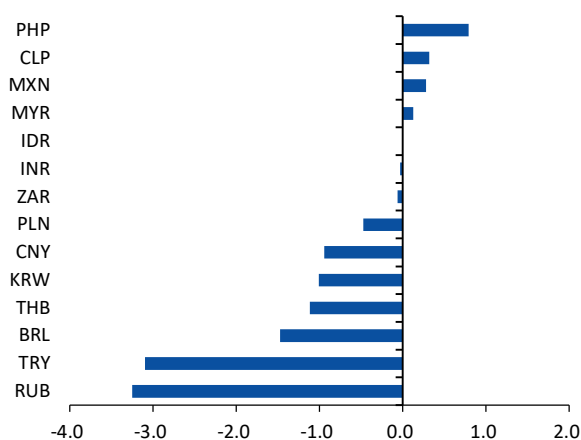
図表 6: 新興国の外貨準備水準の比較 (輸入比率)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

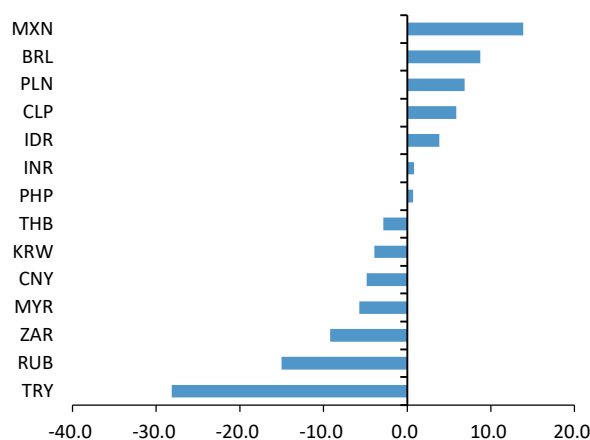
資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



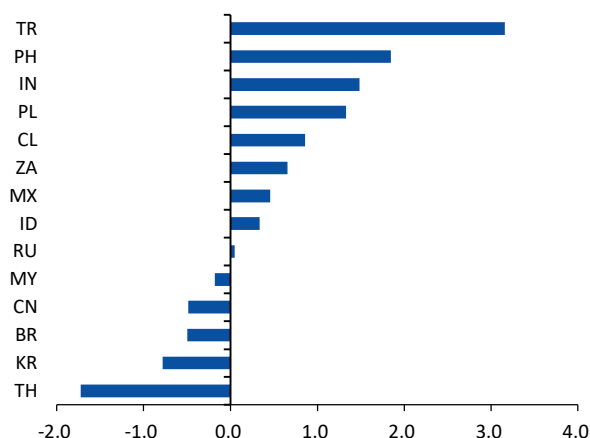
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



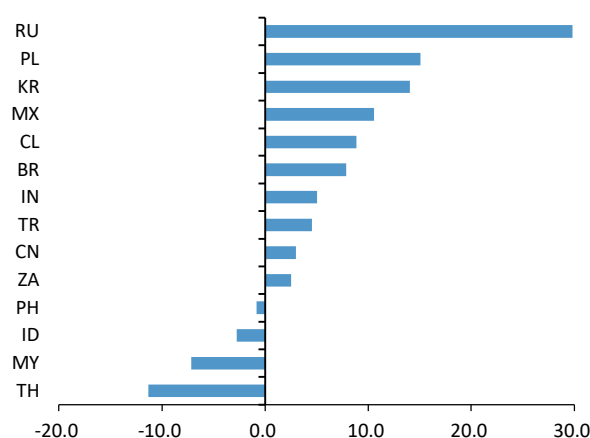
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



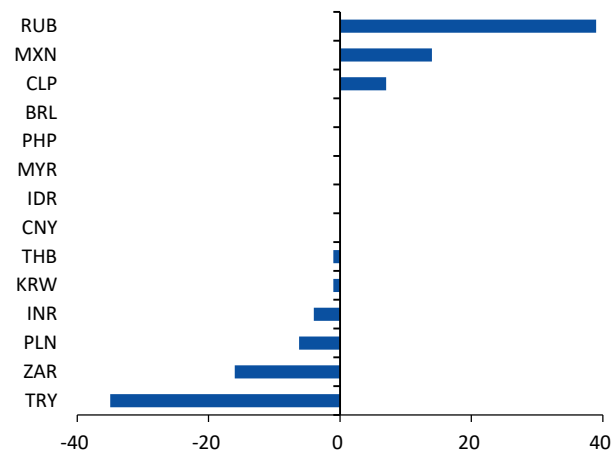
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーク、みずほ銀行

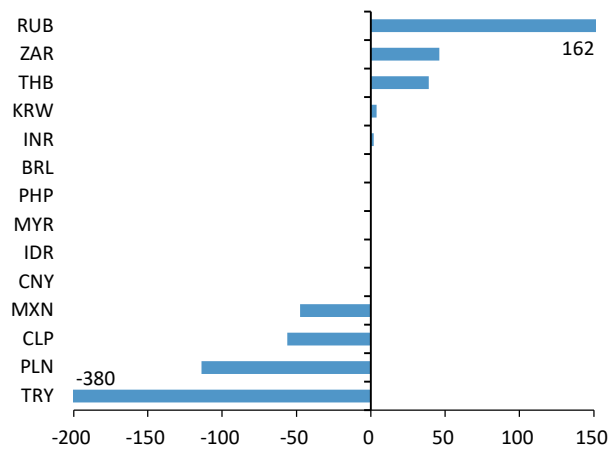
5 年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーク、みずほ銀行

5 年物スワップレート年初来変化(bp)

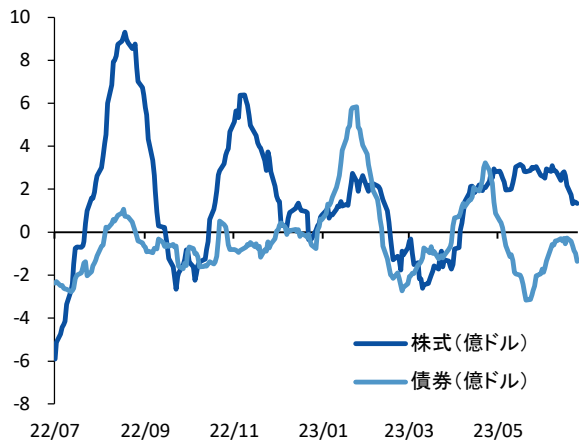


注: データの都合によりブラジルの値は未掲載。

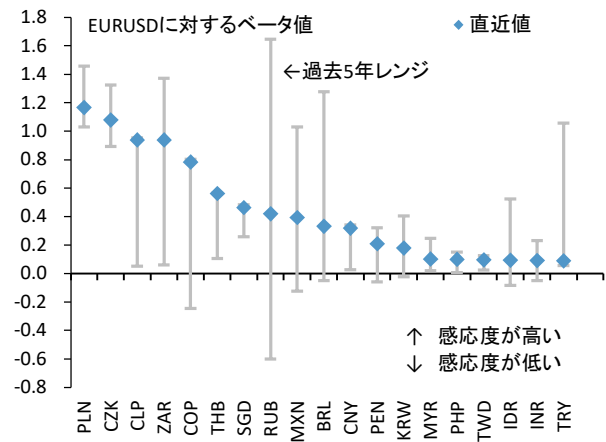
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

チャート集

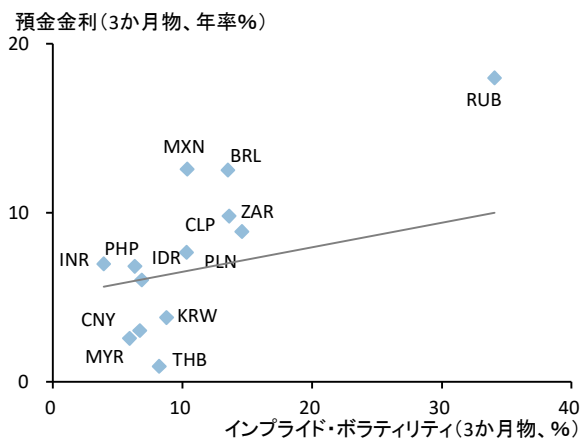
主要新興国への証券投資(4週間移動平均)



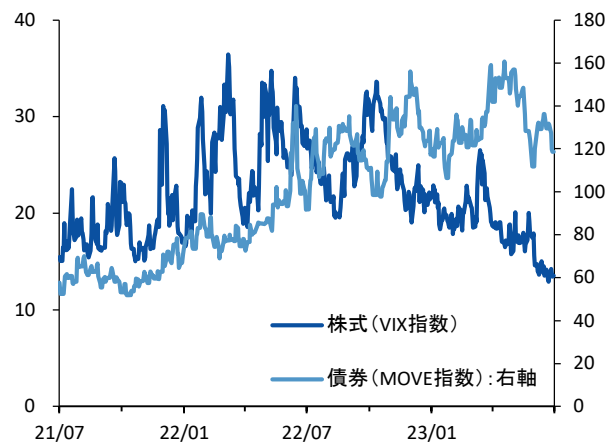
EM通貨(対ドル)のEURUSDに対する感応度(過去12か月)



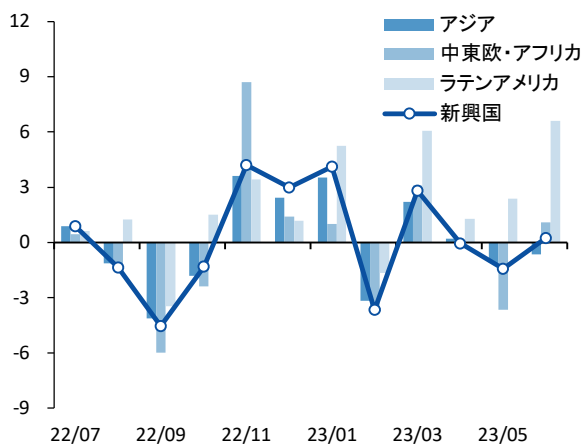
新興国の預金金利と為替ボラティリティ



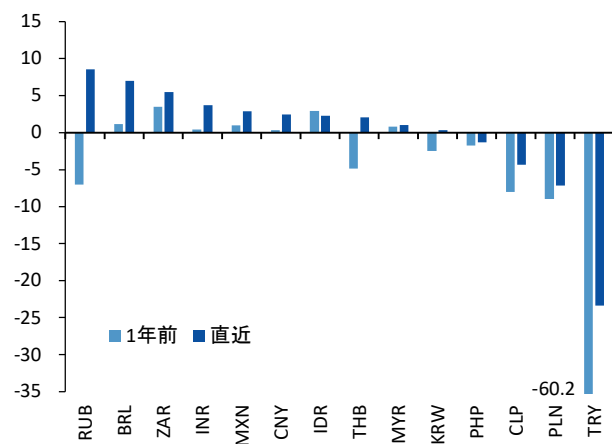
株式と債券のボラティリティ(VIX指数、MOVE指数)



新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



実質金利(10年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
6月26日 (月)	シンガポール	鉱工業生産(前年比)	-7.3%	-10.8%	-6.9%	-6.5%
26日 (月)	台湾	鉱工業生産(前年比)	-20.3%	-15.7%	-22.9%	-22.6%
27日 (火)	タイ	貿易収支(通関ベース)	-\$390m	-\$1849m	-\$1470m	-\$1472m
27日 (火)	フィリピン	財政収支(フィリピンペソ)	--	122.2b	66.8b	66.8b
28日 (水)	韓国	消費者信頼感	--	100.7	98.0	--
28日 (水)	中国	工業企業利益(前年比)	--	-18.8%	-18.2%	--
29日 (木)	韓国	景況判断(製造業)	--	72	73	--
30日 (金)	韓国	鉱工業生産(前年比)	-8.6%	--	-8.9%	--
30日 (金)	中国	製造業PMI	49.0	--	48.8	--
30日 (金)	中国	非製造業PMI	53.2	--	54.5	--
30日 (金)	タイ	国際収支:経常収支	-\$270m	--	-\$476m	--
7月1日 (土)	韓国	貿易収支	\$1500m	--	-\$2100m	-\$2117m
3日 (月)	インドネシア	CPI(前年比)	3.7%	--	4.0%	--
3日 (月)	シンガポール	購買部景気指数	--	--	49.5	--
4日 (火)	韓国	CPI(前年比)	--	--	3.3%	--
5日 (水)	フィリピン	CPI YoY 2018=100	--	--	6.1%	--
5日 (水)	中国	Caixin中国PMIサービス業	--	--	57.1	--
5日 (水)	タイ	CPI(前年比)	--	--	0.5%	--
5日 (水)	シンガポール	小売売上高(前年比)	--	--	3.6%	--
6日 (木)	マレーシア	BNM翌日物政策金利	--	--	3.0%	--
6日 (木)	台湾	CPI(前年比)	--	--	2.0%	--
7日 (金)	韓国	国際収支:経常収支	--	--	-\$792.6m	--
7日 (金)	台湾	貿易収支	--	--	\$4.89b	--
中東欧・アフリカ						
6月29日 (木)	ロシア	鉱工業生産(前年比)	5.6%	7.1%	5.2%	--
29日 (木)	ロシア	実質小売売上高(前年比)	7.5%	9.3%	7.4%	--
29日 (木)	南ア	BER消費者信頼感	--	-25	-23	--
29日 (木)	南ア	PPI 前年比	7.4%	7.3%	8.6%	--
30日 (金)	南ア	貿易収支(ランド)	9.8b	--	3.5b	--
30日 (金)	ロシア	経常収支	--	--	18600m	15800m
7月5日 (水)	トルコ	CPI(前年比)	--	--	39.6%	--
5日 (水)	トルコ	PPI 前年比	--	--	40.8%	--
6日 (木)	ロシア	GDP(前年比)	--	--	-1.8%	--
ラテンアメリカ						
6月26日 (月)	ブラジル	経常収支	\$1650m	\$649m	-\$1680m	--
27日 (火)	メキシコ	貿易収支	-1100.0m	-74.1m	-1508.5m	--
27日 (火)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA-15(前月比)	0.0%	0.0%	0.5%	--
28日 (水)	ブラジル	融資残高	--	5387b	5363b	--
29日 (木)	ブラジル	FGVインフレ率IGPM(前年比)	-6.7%	-6.9%	-4.5%	--
30日 (金)	ブラジル	純債務対GDP比	57.3%	--	57.2%	--
7月4日 (火)	メキシコ	送金総額	--	--	\$5003.3m	--
4日 (火)	ブラジル	貿易収支(月次)	--	--	\$11378m	--
4日 (火)	ブラジル	鉱工業生産(前年比)	--	--	-2.7%	--
5日 (水)	メキシコ	総設備投資(季調前、前年比)	--	--	9.1%	--
7日 (金)	ブラジル	FGVインフレ率IGP-DI(前月比)	--	--	-2.3%	--
7日 (金)	メキシコ	CPI(前年比)	--	--	5.8%	--

注: 2023 年 6 月 30 日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

		2023年 1～6月（実績）	SPOT	2023年 9月	12月	2024年 3月	6月	9月
対ドル								
エマー・ジグアジア								
中国人民元	(CNY)	6.6910 ～ 7.2549	7.2475	7.00	6.95	6.90	6.85	6.80
香港ドル	(HKD)	7.7920 ～ 7.8500	7.8385	7.84	7.84	7.82	7.80	7.76
インドルピー	(INR)	80.883 ～ 82.949	82.058	83.8	82.0	80.4	79.6	79.6
インドネシアルピア	(IDR)	14565 ～ 15643	14993	15600	15000	14900	14800	14600
韓国ウォン	(KRW)	1216.30 ～ 1343.02	1317.61	1330	1290	1270	1250	1230
マレーシアリング	(MYR)	4.2250 ～ 4.6918	4.6722	4.68	4.43	4.36	4.28	4.19
フィリピンペソ	(PHP)	53.628 ～ 56.438	55.330	56.6	53.8	53.5	53.0	52.8
シンガポールドル	(SGD)	1.3032 ～ 1.3576	1.3561	1.37	1.33	1.34	1.33	1.32
台湾ドル	(TWD)	29.608 ～ 31.170	31.077	31.5	30.8	30.5	30.0	29.5
タイバーツ	(THB)	32.57 ～ 35.74	35.63	35.0	33.8	32.8	32.7	32.5
ベトナムドン	(VND)	23415 ～ 23858	23572	24500	23800	23700	23600	23400
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	67.0415 ～ 87.5104	87.2867	89.0	90.0	91.0	92.0	93.0
南アフリカランド	(ZAR)	16.6950 ～ 19.9204	18.7720	19.0	20.0	19.0	19.0	20.0
トルコリラ	(TRY)	18.4339 ～ 26.1287	26.0455	24.0	22.0	20.0	22.0	24.0
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	4.7515 ～ 5.4798	4.8555	5.20	5.10	5.12	5.15	5.17
メキシコペソ	(MXN)	17.0249 ～ 19.5882	17.1286	18.5	19.0	19.1	19.2	19.4
対円								
エマー・ジグアジア								
中国人民元	(CNY)	18.793 ～ 20.038	19.990	20.43	20.43	20.29	20.15	20.15
香港ドル	(HKD)	16.295 ～ 18.490	18.469	18.24	18.11	17.90	17.69	17.65
インドルピー	(INR)	1.559 ～ 1.762	1.764	1.71	1.73	1.74	1.73	1.72
インドネシアルピア	(100IDR)	0.831 ～ 0.966	0.966	0.917	0.947	0.940	0.932	0.938
韓国ウォン	(100KRW)	9.915 ～ 11.151	10.988	10.75	11.01	11.02	11.04	11.14
マレーシアリング	(MYR)	29.106 ～ 31.133	30.933	30.56	32.05	32.11	32.24	32.70
フィリピンペソ	(PHP)	2.325 ～ 2.614	2.609	2.53	2.64	2.62	2.60	2.59
シンガポールドル	(SGD)	96.55 ～ 106.87	106.75	104.53	106.45	104.32	104.15	103.79
台湾ドル	(TWD)	4.205 ～ 4.657	4.641	4.54	4.61	4.59	4.60	4.64
タイバーツ	(THB)	3.770 ～ 4.096	4.063	4.09	4.20	4.27	4.22	4.22
ベトナムドン	(10000VND)	0.5430 ～ 0.6146	0.6143	0.58	0.60	0.59	0.58	0.59
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	1.593 ～ 1.948	1.659	1.61	1.58	1.54	1.50	1.47
南アフリカランド	(ZAR)	6.909 ～ 7.863	7.712	7.53	7.10	7.37	7.26	6.85
トルコリラ	(TRY)	5.490 ～ 7.482	5.559	5.96	6.45	7.00	6.27	5.71
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	23.723 ～ 30.209	29.814	27.50	27.84	27.34	26.80	26.50
メキシコペソ	(MXN)	6.651 ～ 8.513	8.452	7.73	7.47	7.33	7.19	7.06

注: 1. 実績の欄は 2023 年 6 月 29 日まで。SPOT は 6 月 30 日の 7 時 45 分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。